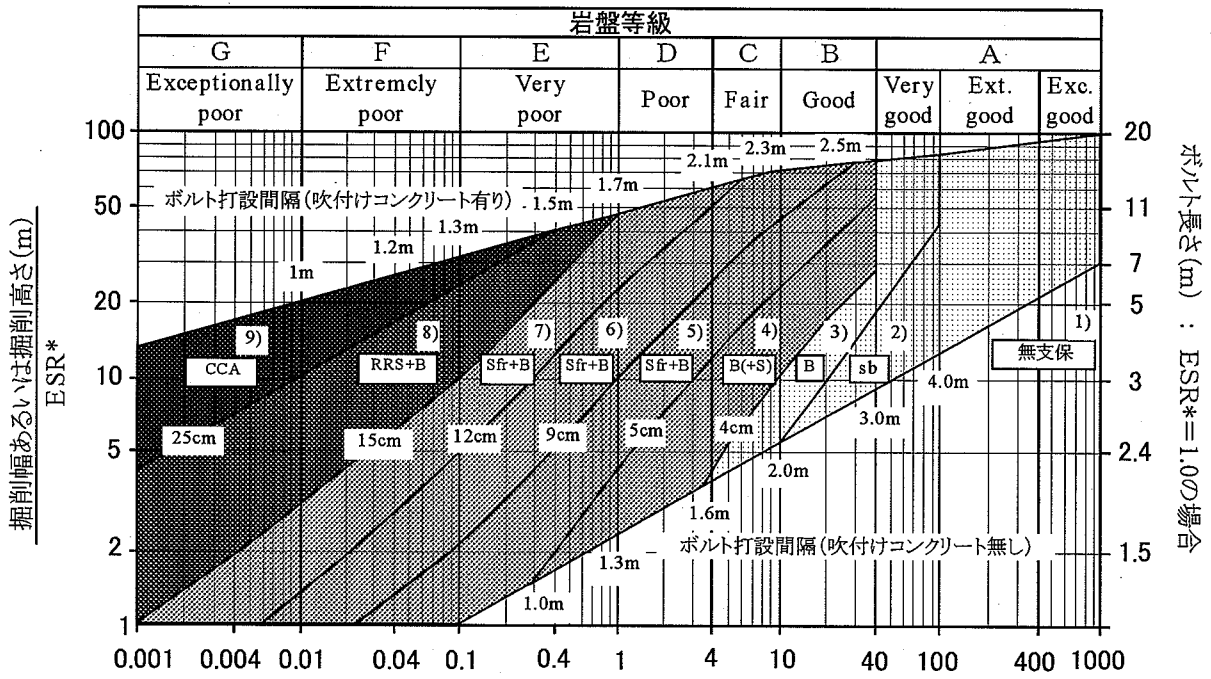


吹付けコンクリート指針（案） [トンネル編]

正誤表

(第1版・第1刷に対応)

ページ	行数 (図表番号)	誤	正
	丸山委員長の「序」		差し替え
	「序」の後		魚本委員長の「序」および橋本主査の「はじめに」を追加
目次 (5)		1. 1. 2 標準設計の適用	1. 1. 2 地山分類による手法
目次 (5)		2. 2. 1 国内の基準	1. 2. 1 国内の規準
目次 (5)		1. 2. 2 EFNARCの基準	1. 2. 2 EFNARCの規準
目次 (5)		1. 2. 3 オーストリアの基準	1. 2. 3 オーストリアの規準
目次 (5)		1. 2. 4 ノルウェーの基準	1. 2. 4 ノルウェーの規準
4	解説図1. 2. 1の右下の図		
6	上から5行目	4. 2. 3 施工計画の変更	4. 5 施工計画の変更
59	7. 1【解説】1行目	4. 2. 2. 1 一般【解説】	4. 4. 1 一般【解説】
98~108	土木学会規準の掲載順序	P98 JSCE-F 562-2005 P100 JSCE-F 563-2005-解説 P103 JSCE-F 563-2005 P107 JSCE-F 562-2005-解説	P98 JSCE-F 562-2005 P100 JSCE-F 562-2005-解説 P102 JSCE-F 563-2005 P106 JSCE-F 563-2005-解説
110	5. 2 バックグラウンド試験	b) 測定時間 測定点ごとに連続した10分間以上とする。なお、測定開始は吹付けを開始してから10分間以上経過した後を目安とする。	b) 測定時間 測定点ごとに連続した10分間以上とする。
126	下から17行目	…、そこで引抜き強度を「4倍して圧縮強度に変換する」方法については、当該指針(案)の中で参考として示すこととし、…	…、そこで引抜き強度を「4倍して圧縮強度に変換する」方法については、当該指針(案)の中で「事前に引抜き強度と圧縮強度の関係を求めておくか、もしくは、信頼ある過去のデータから求められた換算方法を用いることが望ましい」参考として示すこととし、…
146	表1. 1. 7	仮設の鉱山坑道 3. 5	仮設の鉱山坑道 3. 0-5. 0
149	上から4行目	残留強度によって図1. 2. 1	残留強度によって図1. 2. 2
161	下から10行目	②重量吹付けコンクリート	②重ね吹付けコンクリート
173	下から1行目	急結剤添加位置の例を図2. 3. 2	急結剤添加位置の例を図2. 3. 3
179	上から8行目	必要な場合には、3. 2 主な施工事例	必要な場合には、3. 3 主な施工事例



掘削幅あるいは掘削高さ(m)

ESR*

100
50
20
10
5
2
1

0.001 0.004 0.01 0.04 0.1 0.4 1 4 10 40 100 400 1000

20
11
7
5
3
2.4
1.5

